

大学入試改革—プレテスト踏まえた授業案

英語 スピーキングが4技能の向上を加速



西山 哲郎
東大寺学園中学・高校教諭

■ 問われる「運用能力」

今年2月に提示された新しいセンター試験のプレテストに目を通し、驚いたのは発音・アクセント問題、4択や整序といった文法問題が姿を消し、筆記(読解)試験とリスニング試験とともに具体的な場面を想定し「英語の運用能力」を測定するという作成者側の意識が強く感じられたことである。

日本人学習者には、「聞き取りは聞き取り」「読解は読解」そして「文法は文法」といった4技能のつながりを軽視した指導に反映された学習傾向がこれまで色濃かった。文法問題を解くことに優先順位を置く者が多く、文法ドリルに励んでいることが安心感につながる風潮も残念ながら脈々と受け継がれてきた。そのため、4技能に焦点を当てた授業展開を行う教師が悩まされることも多かった。

しかし、今回のプレテストの出題傾向への対応を機に、日本の学校現場に根強く残っている教師主導の文法読解、文脈を軽視したドリル学習といった運用能力向上や表現する喜びにつながらない指導

方法は見直され、4技能重視の授業展開が浸透していくと期待している。

「学習指導要領解説」には、英語習得の一つの目標として「幅広い話題について、話し合ったり、討論する」と掲げられているが、中・高6年間も英語学習に励んだ大学生が海外旅行先のレストランで食事の注文もままならないなどの話は枚挙にいとまがない。こういった理想と現実の隔たりは、上述した文法読解やドリル学習という英語の「紹介」と現実の場面を想定した英語の「習得」の大きな違いを、指導者と学習者の双方が理解していないことから生まれている。

今回のプレテストでは、実際の場面で英語を運用することを念頭に置いた問題が多いことが特徴的である。第4問はレポート、第5問Aでは学校新聞を読み解く力を測定するものであり、第5問Bや第6問では文章を読んだ上でメモを取り、ライティングまでの過程や構成を考えさせる問題が出されている。試行試験は表面上、聞き

テーマ：日本の地域活性化のための具体的アイデアを創出するプロジェクト学習

プロセス	活動	教員の指示・注意点
アイスブレイク	英英辞書を用いた帯活動(単語の定義を英語で説明し合うペアワーク)	会話のひな型をスライドで提示し、英語でのペアワークを指示し、適宜生徒の様子を確認
導入	Picture Description(単元の内容には触れず、先入観なしで英語での写真描写活動)	初めは何のヒントも与えず写真を見たまま描写させるが、表現や文法・構文も提示し、より安定した英語が出るように工夫
展開	PREP Speaking(英語のロジックを意識したスピーキング体得活動)	「都会と田舎のどちらに住みたいか」をペア間で選ばせ、ロジックを意識したスピーキング活動。特徴としてはまず日本語でPREPに沿った発表をさせる。ここも適宜スライドに表現や文法・構文を示し、より安定した英語が出るように工夫
まとめ	インプット活動とアイデア創出のためのグループ活動	地域活性化へのアイデア出しのヒントとなる動画視聴や記事・データ共有。問題提起だけ行い、グループ内での自由な議論を促す
次回予告	PC教室での情報収集	PC教室での情報収集にスムーズに入れるように、ブレイン・ストーミングの継続を指示

取りと読解の2技能測定のように映るが、普段からグループで意見を出し合い、議論し、まとめ、そして発表するような活動型の授業を経験している生徒にとっては親しみやすく、そして解答しやすい形式だともいえる。発信するまでの過程を測定したいという作成者の意図が十分に伝わってきた。

そこで今回は、上表のスピーキングを中心に据えた4技能の向上を目標にした、PBL(問題解決学習)型の授業案をご紹介します。

とリーディング(さらにライティング力)を伸ばすことができるのは米国の日本語教育現場でも実践されており、私がこの4年間実践してきたことを通して確信を得ている。何より外国語で自己表現することはとても楽しいことなのである。

さらに、教師主導ではなく、PBL型の授業を通じ、生徒たちは創造的に思考することを学び、これから到来する未知の新時代を生き抜くことを学んでいる。残念ながら新時代を経験したことのないわれわれ教員は、当然「正しい答え」など持ち得ないわけなので、共に学んでいくという姿勢が重要になり、生徒たちの深い学びを促すファシリテーターとしての素養も求められる。

型にはめなければ生徒たちは既に十分に独創的である。彼らから学ぶことは非常に多く、英語力の向上と社会を生き抜く力を高めてほしいと常に願い、授業に携わっている。

プレテスト問題(一部掲載)

B You are preparing for a presentation about the characteristics of spices. You have found an article about black and white pepper. You are going to read the article and take notes.

Black and White Pepper

[Part 1] Some recent studies have increased our understanding of the role of spices in helping us live longer. There are a variety of spices in the world, but most likely you are familiar with two of them, black and white pepper. Black and white pepper both come from the fruit of the same pepper plant. However, they are processed differently. Black pepper is made from the unripe fruit of the pepper plant. Each piece of fruit looks like a small green ball, just 3 to 6 millimeters across. The harvested fruit turns black when it is dried under the sun. Each piece of dried fruit is called a *peppercorn*. The color of the powdered black pepper comes from the skin of the peppercorn. On the other hand, to get white pepper, the pepper fruit is harvested when it is cherry-red. The skin of the fruit is removed before sun-drying. The color of the seed inside the pepper fruit is white. This is how white peppercorns are processed. Because the skin is very thin, the size of black and white peppercorns is similar. White pepper is usually more expensive than black because there are more steps in processing it.

[Part 2] Where does the flavor of pepper come from? The sharp spicy taste is caused by a natural compound called *piperine*. Not only the seed but also the outer layer of the peppercorn contains lots of piperine. Therefore, some people say black pepper tastes hotter than white. Black pepper also contains many other substances that make its taste more complex. The unique flavor of black pepper produced by the mixed substances goes well with many kinds of dishes. White pepper's flavor is often regarded as more refined than that of black pepper, but it is too weak to bring out the flavor of meat dishes such as steak. Thanks to its color, white pepper is often used in light-colored dishes. Mashed potatoes, white sauce, and white fish may look better when they are spiced with white pepper.

[Part 3] Historically, people have used pepper as a folk medicine. For instance, it was a popular remedy for coughs and colds. The health effect of pepper is partly caused by piperine. Like vitamin C, piperine is a potent antioxidant. This means that, by eating foods including this compound, we may prevent harmful chemical reactions. Furthermore, recent studies have found that pepper reduces the impact of some types of illnesses. All spices that include piperine have this effect on a person's body. Both black and white pepper have the same health benefits.

Complete the notes by filling in [28] to [33].

Notes

Outline:

Part 1: [28]

Part 2: [29]

Part 3: [30]

Table: Comparing Black and White Pepper

Common points	Differences
[31]	[32]

Main points: [33]

問1 The best headings for Parts 1, 2, and 3 are [28], [29], and [30], respectively. (You may use an option only once.)

- ① The characteristics of pepper as a spice
- ② The effects of pepper on health
- ③ The place of origin of black and white pepper
- ④ The production of black and white pepper

問2 Among the following, the common points and differences described in the article are [31] and [32], respectively. (You may choose more than one option for each box.)

- ① the amount of vitamin C
- ② the effect on illnesses
- ③ the flavor
- ④ the plant
- ⑤ the price
- ⑥ the removal of the skin

問3 This article mainly discusses [33].

- ① the advantages and disadvantages of using black and white pepper compared to other spices
- ② the reason why people started to make black and white pepper, and why they have lost popularity
- ③ the reason why white pepper is better than black pepper, and why it is better for us
- ④ the similarities and differences between white and black pepper, and also the health benefits of both

■ 創造的な思考を養う

現在、中高一貫校の高校2年生を担当しているが、彼らを受け持ち本年度で5年目となる。過去5年間、4技能が相互に関連付いた有機的な英語教育を掲げ、授業を行ってきた。

若く経験のない時代は文法読解に始まり、単語帳や問題集を使うこと、音読や暗唱自体を目的化させた授業を行っていたが、思うように力が伸びず英語学習を楽しんでいない生徒たちを目にするたびに悩み、自分自身の英語学習を振り返ってみると、実は学習者として有機的な学びをしていたことに気付いた。

文法のための文法学習、運用能力の向上につながる知識の伝達系の教え方を大幅に見直し、結果、現在は多読多聴、英英辞書、生素材、質問づくり、多読多書、PBLなど私自身の英語学習を反映した授業形態に180度変化した。

当初は話せるようになるためには話す時間を増やす、書けるようになるためには書く時間を増やすといった浅い認識しかなかったのだが、「米国の日本語教育に学ぶ新英語教育」(大学教育出版 米原幸大著)で紹介されている「ジョーデン・メソッド」に感銘を受け、スピーキング活動の充実が4技能の向上を飛躍的に加速させることを知った。

通常、スピーキング重視の授業というのは「文法を軽視している」として批判を受けやすいのだが、ジョーデン・メソッド型の授業では、日本語母語者に英語のグラマールのどの点がどう難しいのかを深く理解させ、インプットし、スピーキング中心のオーラルの授業を行う。言語は意味を持った「音」が最も重要で、スピーキング中心の授業の組み立てで、新センターテストで求められるリスニング力

第5回

夏の教育セミナー

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

この夏8月に、全国12都市で開催!

5年目となる本年は
より実践型へ!

昨年8月、全国12会場
「夏の教育セミナー」を開催。
約5,000名の先生方にご来場いただきました。
今年も大盛況が予想されます。
ぜひご参加ください!

*プログラム詳細は順次公開いたします。もうしばらくお待ちください。

予告

全国12都市・会場にて、
順次開催いたします。

お近くの会場へ、ぜひご参加ください。



開催地・日程

8/1水 仙台
[会場] TKPガーデンシティ仙台

8/2木 大宮
[会場] パレスホテル大宮

8/3金 東京
[会場] ベルサール新宿グランド

8/4土 札幌
[会場] 札幌コンベンションセンター

8/6日 福岡
[会場] ヒルトン福岡シーホーク

8/7火 広島
[会場] 広島コンベンションホール

8/8水 横浜
[会場] 横浜ロイヤルパークホテル

8/9木 大阪
[会場] コングレコンベンションセンター

8/10金 金沢
[会場] ANAクラウンプラザホテル金沢

8/17金 神戸
[会場] ホテルオークラ神戸

8/20日 千葉
[会場] 三井ガーデンホテル千葉

8/21火 名古屋
[会場] 名古屋観光ホテル